

## 愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

### 研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

研究課題名	ルビプロストンとエロビキシバットの安全性に関する後方視的研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山 隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 薬剤部 (職名) 薬剤部長・准教授 (氏名) 田中 守
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2028 年 3 月 31 日
対象	2018年7月1日から2022年12月31日に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち、ルビプロストン(アミティーザカプセル <sup>®</sup> )、エロビキシバット(グーフイス錠 <sup>®</sup> )が処方された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、身長、体重、入院の有無、新規下剤の処方歴、併用薬、処方中止の理由、副作用、血液検査データ、治療状況 等
研究の概要	近年、慢性便秘症の治療薬として、ルビプロストン(アミティーザカプセル <sup>®</sup> )、エロビキシバット(グーフイス錠 <sup>®</sup> )などの新たな種類の下剤(新規下剤)が使用できるようになりました。しかし、これら新規下剤は吐き気や腹痛などの副作用の発現率に差があることが知られています。 本研究では、ルビプロストンおよびエロビキシバットを新たに処方された患者さんを対象に副作用発現率や中止率を比較し、そのリスク因子を検討することを目的としたものであり、その結果は今後の診療にも役立てられると考えています。
個人情報の取扱い	収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。患者さんを特定するための情報(対応表)は、院内で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。 なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特

	定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院薬剤部 峠 雄太 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-964-5732